

## 『“障がい”先の見えない子育てへの不安』

～先輩お母さんの知恵や経験から学ぶ～

### ●はじめに

「人に優しい地域社会」とは弱者に対しての構えや受けではなく自然に関わることです。身近に障がいを持った人がいないと、理解できず、戸惑い、変に意識してしまう。決して別の世界の人ではないのに・・・笑ったり 泣いたり 怒ったり 喜んだり 苦しんだり・・・人は皆一緒のはずです。そして共感できるはず。だから、もっと自然に言葉を交わしたり、接したりと「普通」が大事です。世の中って もっともっと誰もが差別されることなく自然に生きることができるのではないかと思います。そうあって欲しいと強く願います。

誰もが生涯自分らしく生き生きと暮らしていくためには地域に根ざした個々の自立を目指していかなければなりません。そこには人と人との温かい関係や心のネットワークが必要とされます。私たちは地域コミュニケーションの大切さに着目しまずは人権を重視し、個々のハンディキャップを地域における人々に理解してもらうことから始めようと考えました。

### ●Momとは・・・

～今を生きる全ての人へのメッセージ

与えられた宿命に追い込まれず地域社会で堂々と生きていく為に～

障がいを持つ子どものお母さん・不自由な体の人を家族に持つ人達などの実体験手記を作成し朗読や講演を中心に、コンサート、パーティなどの地域交流を通じて子育ての悩みを一緒に考える、福祉の視点からの防災を考えるなどの活動を行っています。同時に、ひたむきな純粋さ・生きる力強さ・命の尊さなど、障がいを持つ彼ら、彼女らからもらう貴重な体験・喜びなどをあらゆる人達に「本当に大切な何か」として感じて欲しいと感じました。

いじめる子・いじめられてる子、自ら命を絶とうとしている子達にも知って欲しい。忙しくて心を失いかけている人、一人ぼっちで苦しんでいる人・・・また普通に幸せに暮らしている時にも。同じ世の中でこんなにも一生懸命に生きている子達がいることを知って欲しいと思いました。人として本当に大切なものが見えてくると思います。

人はその時々を試練をどう乗り越えていくのかで生き方が左右されます。自分らしく堂々と生きる力を・人に対する思いやりを・愛情を！と「Mom～お母さん～」の立場から発信しています。前向きに生きる姿から愛や勇気を感じ、生きる大切さを見つめ、人に社会に優しく在る為に心の学習機会を地域に広めたいと活動しています。

## ◎障がい者を支える側の支援が必要

注) 障がいの種別や度合いによって「支援・対応・親の考え」は様々な違いがある

\*支える人・支援する側の心のケア

- ・母親の悩み
- ・父親の理解
- ・兄弟姉妹の心の内
- ・祖父母の心配
- ・学校・地域の体制創り

### Momの活動を通じて寄せられた声（朗読会・パーティ・勉強会・相談から）

絶望（漠然とした将来像

周囲の目が気になる・子どもと共に死んでしまいたい

不安（関わり方がわからない・漠然とした将来への大きな不安

追い込まれる（障がい=不幸

解放されたい・逃れたい

家庭環境の問題（家族構成や理解度・金銭的な問題

夫が障がいを持つ我が子を受け入れられない

兄弟は親の苦勞を見ているために辛さを出さない

同居の嫁の立場で障がい児を産んだ責任

実家の理解・手助けが救い・舅や姑に支えられている

差別・偏見・いじめ・誤解されやすい行動からの孤立

グレーゾーンの知的障害児への誤解を説く大変さ（変質者

自己申請（手帳・年金・受給者証等

先々の不安（就学时・卒業後～親亡き後

～Momと出逢って～

悩みや思いを話すことでまずは心が軽くなり、先輩お母さん達の経験談から全く見えなかった先々のことを想像しやすくなりました。同時に個人差はありますが子どもの成長も想像できるので年齢ごとに経験させたい事も見えてきました。。行政・病院・学校・事業所・日常と、諸々の不安が少しづつではあるものの解消されていく様に思われます。また、お母さん自身も自分の生き方に目標を見つけたり、前向きに踏み出す勇気や自信も出てきています。暗闇の中に一つの光を見つけちょっとだけ笑顔になれた・・・障がいを受け入れいかに心豊かに歩めるかを考える様になった・・・もう一人ぼっちで悩まなくていい・・・といった声が寄せられています。

### \*今後の課題として

もっと気軽に相談できる場所創り・堂々と子どもと共に生きていける環境が必要

例) ・特別支援学級・学校・地域での意見交換会が必要

・保護者の縦の繋がり場

## \* 過去の取り組み

～ママサタデー～親同士縦のつながりで学びと安心が得られた

ふじざくら特別支援学校の余暇活動「サタデークラブ」が行われていた。

昭和大学・健康科学大学の学生ボランティアが、児童・生徒・卒業生と交流を持ってくれ運動部門とリラックス部門に分かれ2時間を過ごす。同世代の交流は大事。

親達は傍で見ている状態！そこで、せっかくのこの時間を、親同士の交流の場所にして、縦の関係からいろいろ学びたいとママサタデーを立ち上げた。

そこで、心配・不安が軽減

専門家や先生とはちょっと違うことを、先輩お母さんから知る。

「なんとかしなくては！が、なんとかなるさ～」に変わった。

自然に任せる・思いつめない・楽しいことはある・面白いこともある

「大切なのは母達が笑顔で肝っ玉母さんであること！！！」「自分自身を大切に考え前向きであること」

「考え方一つで明るくなれる」「前向きな仲間がいる心強さ」「傷の舐め合いだけの関係はダメ」

しかし・・・継続が叶わず

## \* 現在の取り組み（朗読会・パーティ・講演会・勉強会・相談事業等）

～Momの主な活動～

○男女共同参画推進センター（ぴゅあ総合、ぴゅあ富士、ぴゅあ峡南）

○第23回障害者の主張大会記念講演（県立図書館）

○第13回全国障害者芸術文化祭やまなし大会（アイメッセ山梨）

○山梨県自殺予防推進大会（山梨県立文学館・甲府市総合市民会館）

○知・肢それぞれの観点から（上野原市もみじホール）

○ボランティア・NPOフォーラム2013（県ボランティアセンター）

○福祉の集い・ボランティアの集い 河口湖町社協主催（さくやホール）

○朗読と音楽のジョイントコンサート（河口湖円形ホール 他）（ピアノ・フルート・尺八・ギター・オカリナ・シャンソン・歌手 等）

○TPOパーティー（富士レークホテル、シルバンズ）

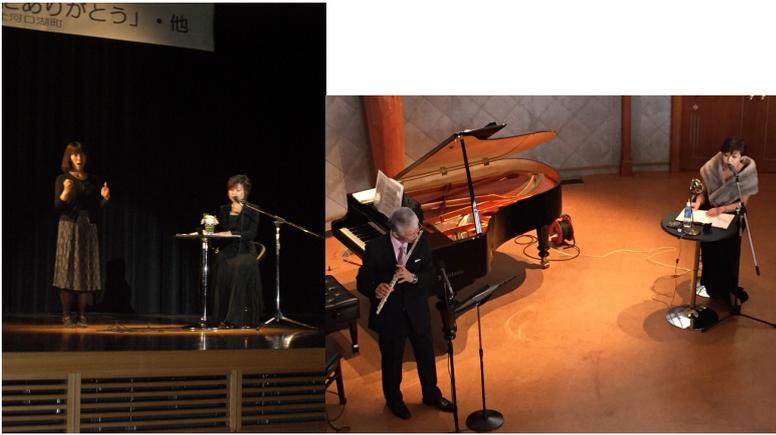
○各種講演 ○電話・訪問相談

～実体験手記～

○もしこの子と出逢えなかったら、私は大切な何かを知らずにいた（H31.7書籍化）

○生きる笑顔にありがとう

○防災で守られる命と心 ○あなたと生きて 他



～朗読と音楽のジョイントコンサート～

「もしこの子と出逢えなかったら私は大切な何かを知らずにいた」

(堀内詠子著 朗読手記より抜粋)

「母さん 泣いてる・・・お腹痛い？」

そう言って傷だらけの小さな手は私の頭を軽く触った・・・

いろんなことが解らないのが知的障害ではなかった。

誰よりも人の気持ちをわかっているのは・・・彼だった

間違いなく優しい心が育っていた 成長していた

私はそれを確信した

『やっと心が繋がった』 そう思った瞬間だ。



～TPOパーティ～

「MomのクリスマスTPOパーティ」

なんらかのハンディキャップを持つ人たちが就労や自立に向けて社会的TPOを学ぶ場です。あらゆる個性を持つ人たちは環境的な問題でなかなか本格的な音楽や静かに聞く朗読会等を訪れる機会が少ないように思われます。突然大声を出したり、歩き回ったりという個性の尊重を意識し障がい者という枠にはめず親子が地域の一人として参加するためのパーティです。障がいを持つ人と家族・介護を受ける側する側・地域・行政・政治家・企業の皆さんと同じ時間を共有し相互に理解を深める場所でもあります。

何よりも偏見という壁のない楽しみの場所に魅力を感じてもらい親子で参加できる喜びを毎年楽しみにしてくれ、一歩踏み出す勇気から大きな自信が生まれています。一人ぼっちで悩まずに色々な人と出逢う事で幸せが見えてくるかもしれません。

